

皇室と社會問題に就て

渡邊幾治郎

少し言ひ過ぎかも知れないが、私にはこの書は一
種の體驗の結果と言ひたい。歴史を專攻した私に
は現代の民主思想の發達、社會運動の勃興を以て、他
の歴史的事實と等しく、單に偶然な一時的の者と思
はれない、時勢の進歩、社會の組織に伴ふ必然的な事
實で、到底避くべからぬものと觀察されたのである。
されば私は之に反抗し、之を阻止せんとするは、大勢
に逆ぶ者で、無益有害である。之を助成し、促進し、指導